# 日本地質学会第116年総会記事

## 議　事　録

日時：2009年５月17日（日）17：45－18：54
会場：幕張メッセ　国際会議場302会議室
（千葉市美浜区中瀬2-1）
開会　（進行：斎藤行事担当理事）
＜議長・副議長・書記の選出＞
議長：長谷部徳子；副議長：小荒井衛
書記：森田澄人・尾上哲治

**＜１号議案＞2008年度事業経過報告**

渡部常務理事による報告と説明．理事会議決・評議員会評議事項について，とくに編集規則の改正内容に触れ，インパクトファクターに関連し引用文献の英語表記が必要で，９月号の原稿から採用することなどが説明された．会員の動静としては，今年度末は昨年に比して会員数104名の減．となり，2009年４月末現在，会員総数4,266名であった．

今年度中に逝去された会員に黙祷を捧げた．

質疑応答：とくになし
採決確認：拍手で承認（出席82；委任42；議決行使賛成24；合計148）
出席者数確認：
議決権総数　203名（代議員182，理事17，監事２）
出席者数　148名（会場出席者82；委任状：42；議決行使書：24）
出席者総数が議決権の過半数を充足し，総会は成立．
＊以下、議案ごとに数字が違うのは，会場出席者数の変化によるものです．

**＜２号議案＞2008年度決算報告**

向山会計担当理事による説明
青野監事による会計監査報告
質疑応答：
質問）支出の部の特定引当金の各繰入額が50万円で一律である意味は何か？具体案があるのか？
回答）具体案はまだない．法人化後に必要となる見込みで，いずれ具体性が出てくると思われる．引当金の一部を基本財産へ移動の見込みである．
採決確認：拍手で承認（出席83；委任42；議決行使賛成24；合計149）

**＜３号議案＞2009年度事業計画について**

渡部常務理事による説明
採決確認：４号議案と合わせて審議し，一括議決とする．

**＜４号議案＞2009年度予算案について**

向山会計担当理事による説明．

特に法人への移行を見据えて，引当金等の整理検討を行うこと，その一環として特に基本財産額を年間経費の半分まで引き上げるため，引当金を取り崩して増額することが説明された．

質疑応答：なし
採決確認：３号議案とともに拍手で承認（出席85；委任42；議決行使賛成23；合計150）

**＜５号議案＞名誉会員の推薦について**

佃委員長による説明
質疑応答：
質問）この度逝去された品田芳二郎氏は環境地質部会から名誉会員に推薦されていた．亡くなったために名誉会員への推挙はなかったが，これまでの選考経緯を明らかにしてほしい．大学教官でない会員の草の根活動による社会貢献に対して表彰を求める．
回答）規約のため死亡者は名誉会員には選出できない．また選考過程を明かすことはできない．しかし，ニュース誌への掲載など何らかの手法で品田氏の貢献を知らせることを検討している．推薦者からの投稿も一つの手段である．
採決確認：拍手で承認（出席87；委任42；議決行使賛成22・保留1；合計152）

**＜６号議案＞任意団体日本地質学会の解散について**

藤本副常務理事による説明
質疑応答：
コメント）社団法人になったら大きなビジョンで活動してほしい．国境問題にも踏み込んだ地質学会ならではの活動を期待する．
採決確認：拍手で承認（出席88；委任42；議決行使賛成23；合計153）

閉会（長谷部議長）

2009年５月17日

以上，決議を明確にするため，この議事録を作成し，議長及び出席理事がこれに記名押印する．

議長　長谷部徳子　印
会長　宮下純夫　　印
理事　藤本光一郎　印

## 2008年度事業経過報告

**１．報告事項**

**１）会員の動静**

2009年４月末現在の会員は，賛助会員30社，名誉会員72名，正会員4143名（うち院生割引126名），準会員30名，会員総数4266名，2007年４月末と比べて104名の減少であり，その内訳は次のとおりである．

入会者　152（賛助１社，正会員136名〔うち院生割引89名〕，準会員15名）
退会者　144（賛助３社，正会員139名〔うち院生割引11名〕，準会員２名）
除籍者　91（正会員91名）
逝去者　21（名誉会員８名，正会員13名）
名誉会員：八木健三（08/7/18），都城秋穂（7/24?），中川久夫（8/5），坂野昇平（8/19），藤田和夫（12/1），加藤磐雄（12/27），松本達郎（2009/2/7），勘米良亀齢（4/6）
正会員：金子史郎（2008/3/14），山崎達雄（4/18），村山正郎（6/4），林　行敏（6/16），関　全寿（8/20），田中　武（8/21），内藤源太朗（9/4），本田　裕（10/13）遠藤勝壽（11/30），吉村尚久（12/5），堀江正治（08年秋），鎌田泰彦（09/1/10），品田芳二郎（3/18）

**２）学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動**

＜第115年総会＞
日時：2008年５月25日　17：30～19：00
会場：幕張メッセ　国際会議場303会議室
出席者：前半＝理事・代議員：出席87名，委任状提出者35名，議決権行使35，合計157，定足数102名，後半＝事・代議員：出席93名，委任状提出者35名，議決権行使38，合計166，定足数102名
審議事項：１）2006年度事業経過報告，２）2006年度決算報告，３）選挙結果報告，４）2007年度事業計画案，５）2007年度予算案について，６）名誉会員の推薦
＜2008年度臨時総会＞
日時：2008年11月30日　14：00～15：00
会場：学士会館　本館　210会議室
出席者：理事・代議員：出席55名，委任状提出者41名，議決権行使54，合計152，定足数102名
＜委員会等の開催＞
・理事会（14回）議事内容，報告等については，随時HP，ニュース誌に掲載
・定例評議員会（４回）議事内容，報告等については，随時HP，ニュース誌に掲載．
・その他委員会：総務委員会（会計委員会），広報委員会（インターネット委員会），行事委員会，地質学雑誌ならびにアイランドアーク編集委員会，各賞選考委員会（選考検討委員会，アイランドアーク賞選考委員会を設置し，該当賞の選考を諮問），地質基準委員会，名誉会員推薦委員会，女性地球科学者の未来を考える委員会，法務委員会学会，選挙委員会など，メールによる会議を含め，随

時開催.

**3）行事の開催**

＜第115年年会＞

会期：2008年９月20日-22日

会場：秋田大学

参加者：791名（会員727名，非会員64名）

日本鉱物科学会　同時開催（合同懇親会・１シンポ・４セッション共催）

・一般発表：484件（申込み492件）：口頭276件（申込み278件），ポスター208件（申込み214件）

・シンポジウム：8件（58講演演），緊急展示：2008年岩手・宮城内陸地震関連１件

・地質災害現地報告会：9月22日（月）2008年四川大地震：1件/2008年岩手・宮城内陸地震：７件

・優秀ポスター賞の授与：12件（ポスター発表のみ）

・見学旅行：実施11コース

・ランチョン：専門部会を中心に９件

・夜間小集会：９件

・就職支援プログラム：2008年９月21日参加企業６社

＜日本地質学会各賞の授与式・記念式典＞

日時：９月20日（土）

会場：秋田大学手形キャンパス教育文化学部３号館大講義室

・日本地質学会賞記念講演「微小領域分析と変成岩」（榎並正樹会員）

・日本地質学会柵山雅則賞受賞記念スピーチ「とにかくやってみる」（片山郁夫会員）

・日韓地質学会学術交流協定調印記念式典，講演　韓国地質学会会長　李 鉉具氏（忠南大学）

＜年会関連行事＞

・地質情報展2008あきた－発見・体験！地球からのおくりもの－　2008年９月19日～21日

共催：（独）産業技術総合研究所（秋田市民交流プラザ　ALVE1Fの「きらめき広場」及び４Fの「自然科学学習館」）参加者：約1900名

・市民講演会「大地の成り立ちと人びとの生活・歴史－男鹿半島・大潟村・豊川油田をジオパークに－」共催：日本地質学会ジオパーク支援委員会．2008年９月20日，参加者：約130名．講師：薄井伯征・佐々木榮一・佃　栄吉・佐々木詔雄

・地学教育委員会

小さなEarth Scientistのつどい～第６回小・中・高校生徒地学研究発表会：2008年９月21日，参加校10，11件，うち２件に優秀賞を授与．

第７回理科教員対象見学旅行：2008年９月20日，見学旅行C班「地学教育の素材としての男鹿半島」秋田地学教育学会共催．

**4）出版物の刊行**

＜地質学雑誌＞

・114巻４号（2008年４月）～115巻３号（2009年３月）を刊行した．総ページ数は650ページ．

・地質学雑誌補遺：秋田大会見学旅行案内書　冊子版およびCD-ROM版．

＜日本地質学会ニュース＞

・11巻４号（2008年４月）～12巻３号（2009年３月）を発行した．総ページ数は340ページ．

＜Island Arc＞

・Island Arc 編集委員会の編集により，Wiley-Blackwell社よりVol.17, Issue 2～Issue 4 Vol.18, Issue 1 を刊行した．総ページ数は654ページ．

＜リーフレット＞

・国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ２「屋久島地質たんけんマップ」

＜その他＞

・地方地質誌　関東地方（朝倉書店より）

・一般向け広報誌の名称を「ジオルジュ」と決め，９月に準備号1000部を印刷し，アンケートをとり，今後の本格的発行にむけて広報委員会が検討を継続中．

**5）関連外部委員会への協力**

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて，これまでに引き続きそれぞれの活動，関連学会の発展と連携に協力した．

日本地球惑星科学連合：評議員（宮下純夫），連絡委員（久田健一郎），プログラム委員（七山　太，大坪　誠），キャリアパス支援小委員会委員（佐々木和彦），環境・災害対応委員会-災害の委員（横山俊治），環境・災害対応委員会-環境の委員（小荒井衛），学術出版委員会委員（井龍康文），教育問題検討委員会（阿部国広，矢島道子，芝川明義，中井睦美），国際委員会（副委員長　公文富士夫），地質科学関連学協会連合（天野一男），自然史学会連合（斎木健一），地理関連学会連合（藤本光一郎），地質技術関連学協会継続教育協議会（CPD，公文富士夫），日本技術者教育認定機構（JABEE，天野一男），国際惑星地球年（IYPE）日本委員会（佃　栄吉），地質の日実行委員会（委員　藤林紀枝）原子力総合シンポジウム（運営委員，高橋正樹），アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会（運営委員，小笠原正継），地質情報活用機構（GUPI）技術者の認定制度創設のための委員会委員（山本高司）富士学会：富士山科学看板設置調整委員会（専門委員　高橋正樹），日本ジオパーク委員会（委員　高木秀雄），大学評価・学位授与機構の専門委員など．

**6）その他報告事項**（主なもの，そのほかはNews誌，HPに掲載の理事会議事録，評議員会議事録参照）

＜特に他学協会との共催・後援，賛行事，開催年月日に関りなくこの期間に依頼のあったもの＞

・日本工業新聞社より，2008年地球環境保護土壌・地下水浄化技術展（10/1-3）の協賛．

・埼玉県理化研究会（会長　大下仁）研修会「東京と伊豆大島の見学：案内者　小幡喜一会員」（8/26-27）の後援

・21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム実行委員会より「第９回子供のためのジオカーニバル」の後援.

・計測自動制御学会，第34回リモートセンシングシンポジウム（11/6-7，東京）の協賛．

・6th International Conference on Asian Marine Geology（8/29-9/1，高知，徐委員長）の後援．

・朝日新聞社「第６回ジャパン・サイエンス＆エンジニアリング・チャレンジ2008（JSE2008）」2008年９月－2009年６月，後援．

・ゼオライト学会，国際会議「ZMPC2009（International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009）」（2009年8/3-7，早稲田大学）の共催．

・筑波大学より朝永振一郎記念第３回「科学の芽」賞を後援，

・ゼオライト学会「第25回ゼオライト研究発表会」（11/7-8）の共催．

・琉球大学熱帯生物圏研究センター共同利用研究会「有殻原生生物プランクトン研究はどこに向かうのか」（11/28-29）の後援．

・石専門の写真家須田郡司氏より，「世界石巡礼」（2009年４月開始）の後援．

・日本ジオパーク委員会の記念式典の後援（2/20）．

・茨城大学主催のシンポジウム「茨城県北地域振興の新たな可能性をさぐる－茨城県北ジオパークをめざして－」（2/1）の後援．

・日本原子力学会，原子力総合シンポジウム2009（５月開催）の共催，運営委員：高橋正樹．

・2009年度地球化学会年会（9/15-17，広島大学）共催．

・第53回粘土科学討論会（粘土学会，9/10-11，岩手大学）の共催

・日本科学技術振興財団より，「青少年のための科学の祭典2008」の後援．

・科学教育研究協議会，第56回全国研究大会（さいたま市，8/1-3）の後援．

・日本アイソトープ協会：第46回アイソトープ・放射線研究会の共催．運営委員：小笠原正継．

**7）支部の活動**

＜北海道支部＞

＊2008年支部幹事会の体制：支部長　宮坂省吾，事務局（庶務）：高清水康博，吉本充宏（会計）・中川充・岡村　聡・渡邉　剛・重野聖之（北海道地質百選兼

任）・安元和己・川上源太郎・千葉恵美，会計監査：岡　孝雄，災害専門委員：川村信人，ジオパーク支援委員：田近　淳　北海道地質百選選定グループ：石井正之・小板橋重一・田近　淳・垣原康之・鬼頭伸治

1．北海道支部総会（2008年５月10日）

・個人講演会（７件）

・特別講演会「知られざるシレトコ―知床半島の地質―」（３件）

2．「地質の日」記念企画　2008年４月29日（火）～６月１日（日）

・北海道大学総合博物館企画展示「ライマンと北海道の地質―北からの日本地質学の夜明け―」
日本応用地質学会北海道支部・北海道大学総合博物館との共催

3．2009年北海道大学総合博物館企画展示「支笏火山と私たちのくらし」の実行委員会の立ち上げ

＜東北支部＞

1．2008年度は支部としての活動は特に行わなかった．

2．第115年学術大会（秋田）は，開催校である秋田大学の実行委員会の奮闘により，無事終了した．

＜関東支部＞

1．地質技術伝承講演会―技師長が語る地質工学余話シリーズ―の開催

第１回（４月19日）　トンネル地質学（講師　石井正之（明治コンサル））

第２回（５月10日）　建設に伴う活断層調査をささえた地質技術屋のはなし－中部海上国際空港との地質調査（講師　豊蔵勇（ダイヤコンサル））

第３回（６月７日）　斜面災害対策と地質屋の役割（講師　上野将司（応用地質））

2．地質見学会（５月17日～18日）
「箱根火山見学会」（案内者　高橋正樹（日大））参加者18名

3．支部総会と第２回研究発表会（６月８日）支部長講演，口頭発表６件，ポスター発表21件

4．柏崎原発トレンチ調査見学会（７月９日）

＜中部支部＞

1．中部支部総会・シンポジウム「ひずみ集中帯とフォッサマグナ」，新潟大学にて（６月28日）

2．個人講演（ポスターセッション）（６月28日）

3．巡検「 中越東頸城丘陵の地形と地質構造」，案内者：小林健太・豊島剛志・立石雅昭（新潟大学）（６月29日）

4．2010年地質学会年会開催地の調整．富山大学を中心として中部支部として開催する．

＜近畿支部＞

1．近畿支部総会・合同例会（2008年６月29日，兵庫県人と自然の博物館）

・公開講演会：「丹波の恐竜化石発掘」三枝春生（兵庫県立人と自然の博物館）

・シンポジウム　「篠山層群周辺の地質発達史：兵庫県中央部の中生代」

・発表：口頭発表　６件，ポスター発表10件，参加者：76名

2．後援

・山陰海岸「地質の日」見学会（2008年５月11日）（日本地質学会近畿支部・山陰海岸ジオパーク推進協議会主催），参加者：69名

・第四紀国際学術講演会（2008年４月４日）大阪市立大学文化交流センター，講演：５件，参加者：38名（日本第四紀学会，日本地質学会　近畿支部，日本応用地質学会関西支部共催）

＜四国支部＞

・巡検：三波川変成岩中の藍晶石（12月20日，午前）　案内者：皆川鉄雄（愛媛大）

・第８回四国支部総会・講演会（12月20日，午後）　愛媛大学メディアホール

＜西日本支部＞

1．2008年度の支部体制

・支部長：大木公彦，幹事：佐野　弘好・宮本　隆実・仲谷　英夫・松田　博貴，事務局：松田博貴，庶務：磯部博志，会計：小松俊文

2．2008年度行事

1）第156回西日本支部例会（近畿・西日本・四国　三支部合同例会）

・日時：平成20年６月29日（日）

・場所：兵庫県立人と自然の博物館

・公開講演会：「丹波の恐竜化石発掘」（三枝春生氏・兵庫県立人と自然の博物館）

・シンポジウム：「篠山層群周辺の地質発達史：兵庫県中央部の中生代」

・講演：ポスター　10件（うち西日本支部会員　１件）

2）第157回西日本支部例会・2008年度総会

・日時：2008年２月14日（土）

・場所：九州大学国際ホール

・講演：口頭　26件，ポスター　10件

・次期幹事校：長崎大学

3．日本地質学会第116年学術大会岡山大会（2009）準備・実行支援事業

・大会準備委員会（準備委員長　板谷徹丸，事務局長　鈴木茂之）のもと，岡山大会の準備・運営を支援．

・西日本支部事務局が，見学旅行案内書の編集業務を担当．

**8）部会研究会等の活動**

1．男女共同参画委員会（委員長　堀　利栄）

・金沢―石川県能登半島周辺 でワークショップを開催（３月29日－30日）

2．構造地質部会（部会長　竹下徹）

・構造地質夏の学校の開催（8/21-23）千葉大学

・構造地質部会2008年度例会（3/14-16）新潟県長岡市

**2．理事会議決・承認事項および評議員会評議，承認事項**

1）2007年度評議員会議長及び副議長の選出，任期１年　議長：保柳康一，副議長：小山内康人

2）各賞選考委員会委員の選出（任期２年，2010年度まで）
新任委員（2010年総会まで）：高橋正樹，滝田良基，渡辺真人，村山雅史，吉川敏之
留任委員（2009年総会まで）：卜部厚志，北里　洋，高木秀雄，中川光弘（選考委員長），堀　利栄
職責委員：現，前，正副編集委員長（アイランドアーク含む）：狩野謙一，宮下純夫，久田健一郎，小嶋　智，岩森　光，石渡　明，Simon WALLIS，井龍康文，前川寛和

3）2009年年会開催地：西日本支部，岡山地区，会場：岡山理科大学　会期：2008年９月４日～９月６日

・実行委員長：板谷徹丸会員（岡山理科大），事務局：鈴木茂之会員（岡山大）ほか．

・岡山大会テーマ：「桃太郎と学ぶ地質学」

・岡山大会の事前及び当日の業務委託について，イベント会社（株）アカデミックブレインズと請書を交わした．岡山大会を日本地球化学会との共催とした．

4）産業技術総合研究所と前年度に引き続き，2008年度も共同研究契約を締結：研究題目：「地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究」

5）2008年度の地学オリンピック（フィリピン）の協賛（協賛金50万円）をした．

6）韓国地質学会の李鉱具会長を秋田大会に招待した．

7）ジオパーク支援委員会は，ジオパークの広報宣伝用パンフレット作成し，地方自治体その他関係者に配布，支援した．

8）名誉会員推薦委員会の設置：委員長；佃　栄吉副会長
各支部長（５名）：宮坂省吾（北海道），大槻憲四郎（東北），中山俊雄（代理：関東），原山　智（中部），宮田隆夫（近畿），高橋治郎（四国），大木公彦（西日本），階層別委員（４名）：大学：岡村眞，小中高：紺谷吉弘，官公所：植村和彦，会社：足立勝治，理事会（１名）：石渡　明

9）2010年年会開催地：中部支部富山地区会場：富山大学　会期：2010年９月18日～20日
委員長：竹内　章，事務局長：大藤　茂

10）現行任意団体との並行運営，組織体制，一般社団法人定款案，細則案，理事会規則案とうの検討を行い，評議員会に諮り，定款の認証，臨時総会を経て，12月１日に一般社団法人の登記を完了した．

11）共同利用施設拠点認定のための要望書提出の要請に応え，以下の大学に要望書を提出した．
高知大学海洋コア総合研究センター，埼玉大学地圏科学研究センター，信州大学山岳科学総合研究所
12）地球惑星科学連合への加盟登録申請をした．
13）富士学会「富士山に科学（学術）的説明看板を設置する運動」へ参加し，看板設置の要請書を提出した．
14）日本地質学会賞および柵山賞の選考について選考検討委員会を設置し選考を諮問した．委員長：宮下純夫，委員：木村学，榎並正樹，磯崎行雄，平　朝彦，久田健一郎，狩野謙一，井龍康文，前川寛和，石渡　明，Simon WALLIS，永広昌之，川幡穂高
・Island Arc賞については，Island Arc編集委員会に選考を諮問した．
15）次の14名の会員を50年会員として顕彰することとした．
鹿島愛彦　小池敏夫　小林忠夫　小村精一
坂口和則　高山俊昭　手塚高清　野田浩司
町田　洋　松山幸弘　丸山順康　森　　啓
盛谷智之　山崎貞治
16）一般社団法人日本地質学会との間で業務委託(月額６万円)等の覚書を交わした．
17）2008年度（2008年４月～2009年３月）決算案を承認した．（２号議案）
18）2009年度（2009年４月～2010年３月）の事業計画ならびに予算案を承認した．（３号・４号議案）
19）名誉会員推薦委員会から提案された下記の５名の会員を総会に推挙することとした．（５号議案）
須鎗和巳会員，飯山敏道会員，相原安津夫会員，原郁夫会員，石崎国熙会員
20）各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した．
・日本地質学会国際賞
太田昌秀（元　ノルウエー極地研究所），対象研究テーマ：極域の地質学
・日本地質学会賞（２件）
鳥海光弘（東京大学大学院　新領域創成科学研究科），対象研究テーマ：造山帯とマントルの力学的側面の研究．
石渡　明（東北大学　東北アジア研究センター）対象研究テーマ：オフィオライトと東北アジアの地質学的研究
・日本地質学会柵山雅則賞（１件）
水上知行（金沢大学　理工学域自然システム学類地球学コース），対象研究テーマ：マントル構造岩石学
・日本地質学会小澤儀明賞（２件）
小宮　剛（東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻），対象研究テーマ：先カンブリア時代のテクトニクスと地球史の解読
須藤　斎（名古屋大学環境学研究科地球環境科学専攻），対象研究テーマ：「珪藻化石生層序を用いた地質学的および古海洋学的研究」
・日本地質学会論文賞（２件）
高橋雅紀，2006，日本海拡大時の東北日本と西南日本の境界．地質学雑誌，第112巻，第１号，p.14-32.
守屋俊治・鎮西清高・中嶋　健・壇原徹，2007，山形県新庄盆地西縁部の鮮新世古地理の変遷－出羽丘陵の隆起時期と隆起過程－．地質学雑誌，第114巻，第8号，p.389-404.
・日本地質学会小藤賞（１件）
嶋田智恵子・佐藤時幸・工藤美幸・山崎誠，2008，IODP, Exp. 303航海で得られた北大西洋の中部第四系から産出した絶滅珪藻種Neodenticula kamtschaticaの意義．地質学雑誌，第114巻，第１号，p.47-50
・日本地質学会研究奨励賞（２件）
石井英一（日本原子力研究開発機構地層処分研究開発部門）
対象論文：石井英一・中川光弘・齋藤宏・山本明彦，2008，北海道中央部，更新世の十勝三股カルデラの提唱と関連火砕流堆積物：大規模火砕流堆積物と給源カルデラの対比例として．地質学雑誌，第114巻，第７号，no.2，p.348-365.
坂口真澄（高知大学理学部）
対象論文：Masumi Sakaguchi and Hideo Ishizuka，2006，Subdivision of the Sanbagawa pumpellyite-actinolite facies region in central Shikoku, southwest Japan. The Island Arc, vol. 17, no. 3, 305-321.
・日本地質学会 Island Arc賞（１件）
授賞論文: Tethyan ophiolites and Pangea break-up ,Island Arc, 14, 442-470 （2006）．著者: Bortolotti, V. and Principi, G.
・日本地質学会表彰（１件）
秋吉台科学博物館（館長　高橋文雄）
表彰業績：秋吉台研究に関する調査研究・教育普及活動
21）法人化への移行方針，スケジュール等と任意団体の解散について総会に諮ることとした．（６号議案）
22）編集規約と投稿規定を一本化した新しい編集規則を策定し，2009年９月から施行することとした．
23）リーフレットの出版を活発にするため「企画出版委員会」（委員長　高橋正樹）を設置することとし，委員会規約案を承認した．
24）法人としての支部規約のモデル案を作成し，各支部に示し，検討を依頼した．

## 2009年度事業計画骨子

事業基本方針：社団法人への学会事業の完全移転と公益法人への早期移行をめざし，地質学と地質学の社会への寄与・貢献の発展

**Ⅰ．公益的事業の展開**
**１．地質学に関する学術活動推進**
1－1．秋季岡山大会の成功
1－2．春季連合大会への参加促進と，地質学会の主催・共催セッションの充実と成功
1－3．学術雑誌の充実と成果の発信
・地質学雑誌充実を図り，インパクトファクター登録雑誌へ
・一般販売の推進とWebでの早期公開の検討
・Island Arcの充実と隔月化の早期実現
1－4．国際交流の強化
・アジア諸国との連携強化
日韓および日タイ学会間の連携と交流のさらなる推進．
モンゴル，フィリピン，ベトナム等の地質学会との協力協定の締結推進．
・国際的な学術研究の推進
1－5．学協会との連携推進
**２．普及・教育・啓発活動**
2－1．最終年度の IYPE活動展開（シンポジウムほか）
2－2．「地質の日」事業・イベントの推進と定着化
2－2．ジオパーク支援の展開と自治体との連携強化
2－3．地学オリンピックへのさらなる支援と人材育成への貢献
2－4．広報誌「ジオルジュ」の定期的発行と出版活動展開
2－5．学術・教育情報の発信の強化
2－6．理科教育に関する提言活動，連合教育問題検討委員会との連携
2－7．地質学関連の教材等の開発とその普及
**３．社会貢献事業**
3－1．自然災害対応の充実・強化（他学会との連携体制の確立）
3－2．地質関連人材養成・派遣・斡旋事業の新展開
3－3．地質技術者支援事業の展開
3－4．Web上で地質学関連業界などと連携

**Ⅱ．組織整備と会員サービスの強化**
**１．組織整備強化**
1－1．公益認定への加速（法人化委員会の発展・強化）
1－2．法人としての中長期ビジョンの策定と実行
1－3．事務局体制の強化と学会事務所の整備推進
1－4．公益事業執行体制の確立
1－5．学会事業の社団法人への移転準備完了
**２．会員サービスの強化**
2－1．情報高度化による会員サービスの強化（英文化を含むWebの充実，システムの高度化）
2－2．地質学関連用品の開発と会員への提供
2－3．学生・院生会員への就職情報の提供と支援